

青果用バレイシヨの栽植密度の違いによる収量特性

第1報 早掘り作型における栽植密度と収量特性

持留信雄・森 清文・上妻道紀 (鹿児島県農業試験場大隅支場)

Nobuo MOCHIDOME, Kiyofumi MORI and Michinori KOUZUMA

Characteristics of Planting Density of Potato Yield

1. Cultivating Type of Early Planting and Harvesting Time of Potato

鹿児島県における青果用バレイシヨ栽培面積は、約3,000haで鹿児島県の主要な畑作物として、南西諸島地域から北薩地域まで多様な作型で作付けが行われている。本報では、早掘り栽培と普通掘り栽培の植付時期、収穫時期の違いが収量に及ぼす影響について、畦間、株間に着目し収量特性を明らかにした。第1報では、11月中下旬から12月上中旬にかけて植付けられ、翌年の3月中下旬から4月中下旬にかけて収穫される早掘り作型について報告する。

1. 試験方法

1) 耕種概要

供試品種は、ニシユタカ。種いもの調整は、消毒後、頂芽より約30gに分割。植付けは、1998年12月4日、収穫は、1999年4月12日、透明マルチを使用し、在ほ期間は129日間であった。ほ場試験は、早掘り地帯である肝属郡大根占町で実施した。

2) 試験方法

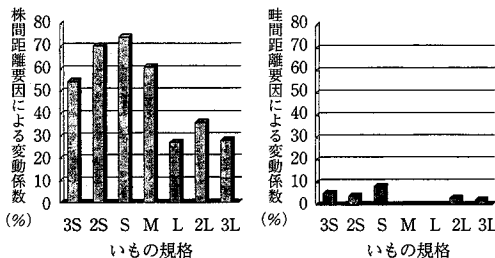
処理を株間と畦間の2要因とし、それぞれ株間を10 15 20 25cmの4水準、畦間を65 70 75 80cmの4水準の2要因4水準実験とした。試験区は1区16.0m²の3反復とし、ブロック要因を設け、ランダム配置とした。収量調査は、第1表の早掘規格を適用した。

第1表 早掘調査規格 (g)

規格	くず	3S	2S	S	M	L	2L	3L	4L
規格	5 <	5 ≤	15 ≤	30 ≤	50 ≤	90 ≤	140 ≤	220 ≤	350 ≤
重量	<14	<29	<49	<89	<139	<219	<349		

2. 結果および考察

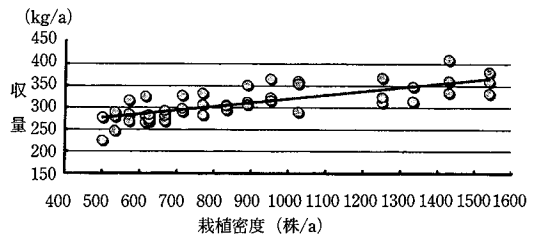
各規格収量に与える株間と畦間の影響について、第1図に示す。各規格収量とも株間の与える影響が特に大き



第1図 畦幅と株間距離が規格別収量に及ぼす影響

く、畦間の影響は小さいことを認めた。

第2図に規格収量と栽植密度の関係について示す。栽植密度の上昇により、収量は正の相関で増加する。



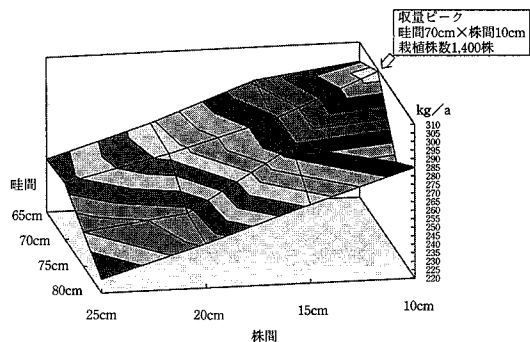
第2図 規格別収量と栽植密度の関係

ここで、収量に商品価値を反映させるため、規格別の収量補正係数(第2表)をかけた収量と栽植密度の関係をみると、第3図より畦幅70cm×株間10cmの時の補正した収量が最も高くなり、このときの栽植本数はa当たり約1,400株となった。

第2表 規格別単価による収量補正係数

規格	くず	3S	2S	S	M	L	2L	3L	4L
係数	0	0.67	0.72	0.90	1.00	1.04	0.88	0.76	0.74

注) 収量補正係数はM規格を1.00として価格差を規格ごとに係数化した



第3図 収量補正後の栽植密度と収量の関係